

講義コード	515106203									
講義名	子育て支援 EF									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科 (短大)									
講義開講時期	後期									
基準単位数	1									
時間	0.00									
代表曜日	火曜日									
代表時限	1 時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教科に関する科目									
対象学部・年次	女子短期大学部・2年									
必須/選択	選択									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>坪井 真</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会 (短大)</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	坪井 真	指定なし	専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし
職種	氏名	所属								
専任教員	坪井 真	指定なし								
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし								

授業の概要

近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（演習プログラム）により、保育の専門性を基盤とした保護者に対する相談援助の実際や特徴、子育て家庭の多様なニーズに即した支援内容・方法・技術（ソーシャルワークの応用など）を学び、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を理解します。

授業の到達目標及びテーマ

保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。

- (1)保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。
- (2)保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、考察することができる。
- (3)主体的な姿勢で予習・復習およびアクティブラーニングに取り組むことができる。

また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。

さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。

授業計画表

子育て支援

回	担当	項目	内容	予習	復習

	教員				
第1回	坪井真	子どもの保育とともに 行う保護者の支援	①授業のガイダンス ②子どもの保育ととも に行う保護者の支援 (講義)	皆さんが本学の学びで得た 関連知識および報道など で関心をもった関連事項な どを振り返り、子ども家庭支 援の特徴を再確認してくだ さい。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第2回	坪井真	日常的・継 続的な関わりを通じた 保護者との相互理解と 信頼関係の 形成	講義・演習をととし て、日常的・継続的な 関わりを通じた保護者 との相互理解と信頼関 係づくり(その特徴と 実際)を学びます。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第3回	坪井真	保護者や家 庭の抱える 支援のニー ズへの気づ きと多面的 な理解	講義・演習をととし て、保護者や家庭の抱 える支援のニーズへの 気づきと多面的な理解 (その特徴と実際)を 学びます。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第4回	坪井真	子ども・保 護者が多様 な他者と関 わる機会や 場の提供	講義・演習をととし て、子ども・保護者が 多様な他者と関わる機 会や場の提供(その特 徴と実際)を学びま す。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第5回	坪井真	保育者が取 り組む子育て 支援の展開①：支援 計画の策定 と実践・記録	講義・演習をととし て、子育て支援の計画 策定と実践・記録(そ の特徴と実際)を学び ます。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第6回	坪井真	保育者が取 り組む子育て 支援の展開②：連 携・協働と 社会資源の 活用	講義・演習をととし て、子育て支援を担う 支援者・支援組織の連 携・協働と社会資源の 活用(その特徴と実 際)について学びま す。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
第7回	坪井真	前半の確認 テスト	第1回から第6回の学 習内容を振り返り、理 解したことや考えたこ とを整理する確認テ ストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テ ストの予習箇所を提示しま す。第1回から第6回に該 当する教科書や参考資料を 読解し、理解したことや考 察内容を予習してくださ い。	確認テストの解答 内容を振り返り、 第1回から第6回 の授業で学んだこ とを復習してくだ さい。
第8回	坪井真	保育所にお ける支援	講義・演習をととし て、保育所における子 育て支援の特徴と実際 を学びます。	前回の授業終了時に教科書 の予習箇所を提示します。 教科書の該当箇所を読解 し、理解したことや考察内 容を予習してください。	今回の授業内容に 該当する教科書な どを読解し、理解 したことや考察内 容を復習してくだ さい。
					今回の授業内容に

第9回	坪井真	地域の子育て家庭に対する支援	講義・演習をとおして、地域の子育て家庭に対する支援（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第10回	坪井真	障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援	講義・演習をとおして、障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第11回	坪井真	特別な配慮を要する子どもと家族（保護者など）に対する支援	講義・演習をとおして、特別な配慮を必要とする子どもと家族（保護者など）に対する支援（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第12回	坪井真	要保護児童と家族（保護者など）に対する支援	講義・演習をとおして、保護を必要とする子どもと家族（保護者など）に対する支援（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第13回	坪井真	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	講義・演習をとおして、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の支援（その特徴と実際）について学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第14回	坪井真	後半の確認テスト	第8回から第13回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第8回から第13回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第8回から第13回の授業で学んだことを復習してください。
第15回	坪井真	総括	①第7回の授業で取り組んだ前半の確認テストおよび第14回の授業で取り組んだ後半の確認テストを解説します。 ②第1回～第13回の学習内容を振り返り、本科目全体の振り返りとまとめに取り組みます。	第1回～第13回の授業で学んだ内容（教科書や資料、自筆ノートなどの該当箇所）を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	本科目全体（第1回～第13回）の学習内容を振り返り、理解したことや考察内容を復習してください。

授業時間外の学修

【予習】

次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には90分かかると想定されます。

第1回の予習は、皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などで関心をもった関連事項などを振り返り、子育て支援の特徴を再確認してください。

第2回以降の予習（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）は、前回の授業終了時に教科書などの予習箇所を提示します。

【復習】

授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には90分かかると想定されます。なお、復習の成果は各自の成績評価に活用します。各回の授業内容（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	50%	定期試験 (期末試験) で授業内容全般の理解度を評価します。
小テスト等	0%	
	0	

成果発表	%	
授業への貢献度	0%	
レポート	0%	
その他	50%	演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート

教科書

本科目は以下の教科書を使用します。
小原敏郎・他「演習・保育と子育て支援」（みらい 12,200+税）

参考書

適宜、紹介します。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

科目のナンバリング
SOB2401

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を身につけてください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 230 研究室

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- ① 定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。（全体の50%）
- ② 演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。（全体の50%）